

2018年

日本初個展

6月1日(金)~6月30日(土)

午後1時~7時 日・月休廊

1PM~7PM, closed on Sundays and Mondays

深い海の底か、暗い森の中の湿地のような場所に、異形の者共が湧き上がるように群れている。煙幕に投影されるファンタスマゴリー(幻灯機による幽霊刺さながら、闇の裂け目から現れてはまた消え失せる。それは、夜、目を閉じると見える幻たち。クリスティーヌ・セフォロシャは、夢を写す画家だ。ある夜、画家は藪の中で眠る夢を見る。暗いまどろみの中で、画家は鹿に化身する。その身はさらに樹木へと変容する。半獣・半樹と化した画家は、自然と渾然一体だ。妖しい蟻にも、鈍く光る鉱石にもなれる。生と死に分身することさえできよう。絵を描くことは、見えないものを見るようにする仕事だ。見えないものは、ときには夢幻の物語を紡ぐようにして描かれ、またときには幻視の瞬きの直写として捕えられる。その絵画には、黒い魔性、流転する時空、そしてヒトが原初から携えて放さない、土地と森の記憶が融け合っている。彼女の夢の淵は、とてつもなく深い、創造の泉だ。

・三十余点出品

(ギャラリー宮脇)

後援



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館

ギャラリー **宮脇**  *galerie miyawaki*



Self-portrait as Deer (2013) 92x65.7cm

Christine Sefolosa, the First Solo Exhibition in Japan at Galerie Miyawaki, Kyoto, June 2018

〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル東側(京都市役所近く一保堂茶舗北隣り) ☎ 075-231-2321 Fax-2322 info@galerie-miyawaki.com
GALERIE MIYAWAKI Nijo-agaru, Teramachi-dori, Nakagyo-ku, Kyoto 604-0915 JAPAN www.galerie-miyawaki.com



Swiss Artist, Christine Sefolosa, the First Solo Exhibition in Japan at Galerie Miyawaki, Kyoto, 1st June — 30th June 2018



クリスティーヌ・セフォロシャ作品集「永遠の彷徨者」序文(和訳転載) 文・ロジャー・カーディナル

クリスティーヌ・セフォロシャは、1955年、スイス・フランス語圏モントルー近郊のドイツ系スイス人の家庭に生まれた。子供時代、慢性的な不眠に苦しむ夜を、絵を描くことでやり過ごした。青少年の大会に参加するほど乗馬に親しんだ彼女は、動物への愛情を膨らませ、やがて馬の治療にあたる獣医師と出会った。

1976年21歳のとき、母国の南アフリカへと戻ることになった獣医師の夫と同行し、息子連れてヨハネスバーグに定住。そこでドローイングと絵画の創作にめざめた。一方、夫の仕事を手伝うことによって、さまざまな動物たちの骨格について深く識るようになった。

1982年に離婚。そして、貧民街で知り合った南アフリカ系ミュージシャン、パトリック・セフォロシャと再婚。しかし、同居を望む二人は、黒人と白人の関係を禁じるアパルトヘイトに直面し、たちまちバッシングを受けた。夫婦は南アフリカを離れ、スイスに移り住んだ。そしてまもなく二人の子を授かった。

その直後、彼女の両親が亡くなった。彼女は急いで生計の道を見つけるべく、生まれ育った家に帰った。このときから、再び絵画の創作がはじまった—アフリカでの記憶をたぐりながら…。

クリスティーヌ・セフォロシャの作品には、動物たちのトーテムが画面を占める興味深い一群がある。そこには作者の、対立する二つの大陸のヴィジョンに培われた感性、そしてあらゆる規範からも逸脱してきた感